

みまぐ 私の逸品 メノラー

標本番号 H01668006
地域 モロッコ王国
受入年 1989年

民博 民族社会研究部

すがせあきこ
菅瀬 晶子

日本ではなじみがないが、海外では国が支給するIDカードがひろく普及している。多くは国章がデザインされ、わたしの調査地であるイスラエルのIDカードにも、国章であるオリブの枝にふちどられたメノラーが刻印されている。

メノラーとは、ユダヤ教の儀礼用燭台しやくだいのことだ。ヘブライ語で「灯（ノル）をともすところ」を意味し、たいていは七枝にわかれた特徴的なかたちをしている。なかには九枝のものもあり、これは紀元前二世紀中葉のエルサレム神殿奪回を記念する祝祭、ハヌカーのときだけ使用される特別なものだ。ハヌカーの季節になると、イスラエルでは広場に巨大な九枝のメノラーが登場し、初日に二つ、その後は一日にひとつずつ、灯がともされる。八日間続くハヌカーの最終日には、すべての枝に灯がともることになる。メノラーは長らく、ユダヤ教のシンボルとして扱われてきた。イスラエルの国章にメノラーが使われているのは、この国がユダヤ国家を標榜ひょうぼうしているためにほかならない。しかし、この国には全人口の約二割に相当するアラブ人（パレスチナ人）マイノリティがおり、彼らはユダヤ教ではなくイスラームやキリスト教などを信じている。ユダヤ教徒（ユダヤ人）ではないのに、そのシンボルであるメノラーをあしらったIDカードを携行しなければならない彼らの胸中は複雑である。

ところで、イスラームの礼拝所であるモスクにつきものの尖塔せんとうは、アラビア語ではマナーラ、つまり「灯（ナール）、光（ヌール）をともすところ」である。メノラーとまったく同じ成り立ちの単語であり、同じセム系言語であるヘブライ語とアラビア語の近似性を端的にあらわしている。メノラーに宿る灯も、マナーラを照らす陽光も、争いの絶えないパレスチナ・イスラエルに平和をもたらしものであってほしい。人の祈りとはすべて、本来は平和と安寧へと向かうべきものはずだから。



イスラエルのパスポートの身分事項ページ。メノラーの刻印がみられる

